

参考・引用文献

Agency for Healthcare Research and Quality,

<http://www.ahrq.gov/qual/hospsurveydb/hospsurveydb1.pdf> [2011-05-12]

鮎澤純子(2009).医療機関における安全対策.松下由美子,杉山良子,小林美雪.ナーシング・グラフィカ EX 1 医療安全.p78.大阪:株式会社メディカ出版.

Committee on the Work Environment for Nurses and Patient Safety/ Institute of Medicine,(2004). Keeping Patient Safe: Transforming the Work Environment of Nurses. 患者の安全を守る 医療・看護の労働環境の変革(2006). 日本ジャーナリスト協会, 井部俊子監訳(2006), 日本評論社.

Drucker P.F., プロフェッショナルの条件, 上田惇生編訳(2000). ダイヤモンド社.

藤澤由和,(2002).医療安全文化論—医療組織における安全文化概念—,保健医療科学,51(3).137-141.

福井理恵,原谷隆史,外島裕ほか(2004).職場の組織風土の測定 組織風土尺度 12 項目版 (OCS-12)の信頼性と妥当性.産業衛生学雑誌,46(6),213-222.

Gershon R.R.M., Stone P. W., Zeltser M. et al.,(2007). Organizational Climate and Nurse Health Outcomes in the United States. Industrial Health,45(5),622-636.

細田聡(2005).安全文化向上のための目のつけどころ.労働の科学, 60(3), 23-27.

井部俊子,(2004).医療安全確保のための看護体制のあり方に関する調査研究報告書, 平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金事業.

Institute of Medicine (1999) . To Err Is Human Building a Safer Health System.人は誰でも間違える(1999), 医学ジャーナリスト協会.

事故災害防止安全対策会議,

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/jikosaigai/991208houkoku.html> [2011-05-12]

Kim S. C., Quinn R. E.(2009), 組織文化を変える, 中島豊監訳(2009). ファーストプレス 厚生労働省,<http://www.mhlw.go.jp/topics/2001/0110/tp1030-1f.html>[2011-05-12]

松原紳一(2006a).患者の安全に関する職員の態度と組織要員の関連 医療安全風土尺度の応用(1).医療の質・安全学会誌,1 Suppl,170.

松原紳一(2006b).医療現場の安全風土とインシデント・アクシデント報告の関係をさぐる 医療安全風土尺度の応用(2).医療の質・安全学会誌,1 Suppl,171.

日本医療機能評価機構(2011), http://www.med-safe.jp/pdf/report_27_.pdf [2012-01-20]

日本看護協会(1999),

https://direct.nurse.or.jp/jna_system/guidline/riskmanagement/003_1.asp

[2012-01-20]

小田利勝,(2011). ウルトラビギナーのための SPSS による統計解析入門. (有)プレアデス出版.

及川三枝子,虎尾浩美,月僧博和ほか,(2010). 精神障害者グループホーム入居者の火災安全意識に関する研究－入居者のアンケート調査より－, 日本社会精神医学会雑誌, 19(2,3), 170-175.

岡ユカ,宇津徹子,宮本裕美ほか,(2010).合併に伴う 3 病院間の職場環境の分析と検討 職務満足と組織風土の関係より.日本看護学会論文集：看護管理,40,78-80.

大久保靖司,古澤真美,中谷敦ほか,(2010).産業保健活動における安全衛生文化の意義についての調査研究.産業医学ジャーナル.33(3),33-39.

大塚泰子,呉羽富士美,三宅峰子ほか(2005),安全文化の測定医療安全意識調査を行って,香川労災病院雑誌,11,181 - 183.

奥村隆志,細田聡,施桂栄ほか(2006).一専門病院における安全文化レベル評価に関する調査研究－安全文化評価ツールを用いて－, 労働科学, 84(2),43-62.

尾崎フサ子,金井 Pak 雅子,柳井晴夫ほか,(2011).尺度開発の課題と今後の方向性.日本看護管理学会誌, 15(2),175-184.

佐藤郁哉,山田真茂留.制度と文化 組織を動かす見えない力,(2004),日本経済新聞出版社.

Schein E. H. (1999), 企業文化, 金井壽宏監訳(2004), 白桃書房

島田富子,南昌秀,原谷隆史ほか,2 施設の総合病院に働く看護師の職務満足と組織風土との関連 看護師ストレスサー尺度と組織風土尺度 12 項目版 (OCS-12) を用いた検討. 産業精神保健,18 増刊,55.

新保忠宣(2006),医療事故発生都市における医療安全管理対策の取組みと今後への示唆,国際医療福祉大学紀要,11(1),17-26.

Singla A. K., Kitch B. T., Weissman J. S., et. al.(2006).Assessing Patient Safety Culture : A Review and Synthesis of the Measurement Tools. Journal of Patient Safety, 2 (3),105-115.

相馬孝博.(2003).医療における安全文化 我々の目指すべきは?, インターナショナルナーシングレビュー,26(4), 30-36. 2003.

Spath P. L. (2004). Patient Safety Improvement Guidebook. よくわかる医療安全ガイドブック, 東京都病院協会診療情報管理委員会監訳(2008), 株式会社学習研究社.

庄子由美,梅澤昭子,星邦彦ほか,(2003).私の病院の取組み 医療安全文化をいかに醸成するか,医療マネジメント学会誌,4(3),445-449.

種田憲一郎.(2010),医療安全推進に必須の組織文化(安全文化)の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用 平成 21 年度総括・分担研究報告書, 厚生労働科学研究費補助金 医療安全・医療技術評価総合研究事業.

遠矢雅史,大道久.(2010). 医療安全確保に必要な費用の現状と課題. 社会保険旬報, 2418 10-15.

WHO. (2005). WHO draft guidelines for adverse event reporting and learning systems : from information to action. 有害事象の報告・学習システムのための WHO ドラフトガイドライン,一般社団法人日本救急医学会監訳,(2011),へるす出版.